

洋上風力発電における環境影響評価と
漁業影響について（その2）

2022/1/15 電力環境部火力発電所担当チーム マネージャー 西川明豪

今回は風力発電のはじまりやメリット・デメリット、環境影響評価の概要をお話ししました。今回は、環境影響評価と漁業影響に関する調査・予測についてお話しします。

環境影響評価においては、漁業への影響についてどのように調査・予測及び評価を行うかといったことについて詳しくは言及されていません。温排水影響調査暫定指針（海生生物・漁業影響調査関係）

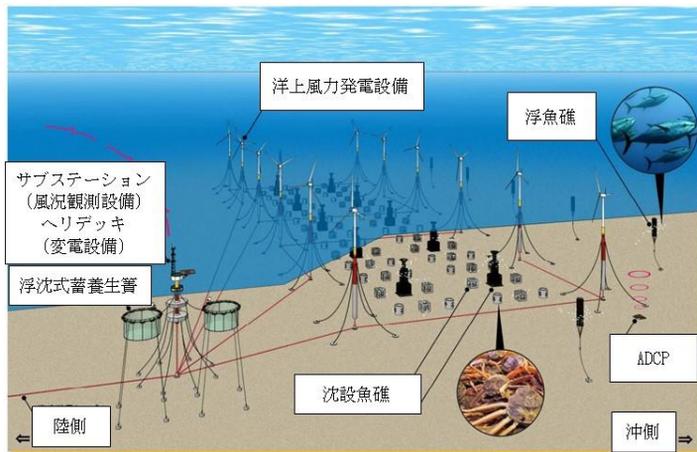
（資源エネルギー庁公益事業部発電課、昭和62年3月）は、臨海発電所運転の環境影響のうち、海生生物・漁業への影響を調査する場合の指針として活用されていますが、法的な強制力は持っていません。その後、漁業影響調査指針（社団法人日本水産資源保護協会、平成17年3月）が公表され、漁業への影響を定量的、客観的に調査・予測及び評価する方法として利活用されてきました。

洋上風力発電については、再エネ海域利用法で、沿岸域での漁業と風力発電が共存できるようにすることを前提としています。このため、漁業影響調査の重要性が増してきていると言えます。このような状況の中、洋上風力発電施設の建設に伴う漁業影響調査の実施について（一般社団法人全国水産技術協会、令和元年7月）が公表され、洋上風力発電施設の建設に特化した形の漁業影響調査が実施される形に変化してきました。

漁業資源となっている魚類の資源を増大させる取り組みとしては、魚礁の設置があります。魚の隠れ家や産卵床、餌生物の生育場などを海洋に設置すると、これを利用する生物生態系が形成されます。生物生態系が形成されると、その一部である漁業資源も増大することとなるため、様々な目的の魚礁が設置されてきました。洋上風力発電設備についても、一定の魚礁効果が期待できることはこれまでの研究結果から証明されています。また、洋上にしっかりと固定されることから、これらの固定施設を必要とする海面養殖との共同利用なども検討されています。着床式および浮体式洋上ウィンドファームの漁業協

調メニュー（一般社団法人海洋産業研究・振興協会、2015年6月）では、漁業とどのように協調するかを様々な漁業形態に対応した形で提言しています。観光、レジャー利用、漁業者の発電設備保守点検業務への参画など、漁業との共存・共栄の将来像を示しています。

このような洋上風力発電と漁業が共存する未来づくりに貢献することが、弊社の使命と考えております。洋上風力発電と漁業との協調、漁業影響に関する様々な調査については、是非弊社にお問い合わせください。



（浮体式洋上ウィンドファームにおける漁業協調メニューの概念図）

出典：着床式および浮体式洋上ウィンドファームの漁業協調メニュー（一般社団法人海洋産業研究・振興協会、2015年6月）表紙より

参考資料

海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律 (<https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=430AC0000000089>)